

平成28年度 教員免許状更新講習「学校教育と体験活動A」

1 趣旨

社会の発展とともに子どもを取り巻く環境は大きく変化した。特に、自然体験活動の経験が減少し、自然や人との関わりから得られる知恵や知識、能力が身に付かず、「社会性」や「生きる力」が十分に育っていない子どもが多くなっている。

そこで、本講習では学校教育における体験活動の意義を再認識するとともに理解を深め、実際の教育現場での活用の仕方について考える。そのために、大学教員や自然の家職員の講義に加え、自然の家で実施している「自然体験活動プログラム」を実際に体験することによって、体験活動についての基本的な考え方や指導技術等を身に付ける。

2 主催

国立大学法人 宮城教育大学

3 共催

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家

4 期日

平成28年8月8日（月） [日帰り]

5 場所

国立花山青少年自然の家

6 参加対象と人数

免許状更新対象者（ 幼稚園・保育園 {7}、小学校 {11}
中学校 {5}、高等学校教諭 {7} ） 30名

7 参加状況

	宮城県		岩手県		福島県		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
受講者	11	17	0	1	1	0	12	18
計	28		1		1		30	

8 日程

時刻	プログラム	内 容 等	場所
8:30	受付開始		玄関ロビー
9:00	【開講式】	インフォメーション	大研修室
9:10		諸連絡（事務局）	
9:10	【講義1】 「学校教育と体験活動」	講師 宮城教育大学 教授 笠間 賢二	大研修室
10:10			
10:20	【実習1】 「アイスブレイキングの手法」	講師 国立花山青少年自然の家 主任企画指導専門職 狩野 浩二	大研修室
11:10			
11:10	【講義2】 「体験学習法の理解」	講師 国立花山青少年自然の家 主任企画指導専門職 狩野 浩二	大研修室
12:00			

12:40	【実習 2、3】 「火起こし体験」 「焼板作り」	講師 国立花山青少年自然の家 企画指導専門職 山田 健一	工作館
14:10	【実習 4】 「スコアオリエンテーリング 体験」 ※荒天のため「館内オリエン テーリング」に変更	講師 国立花山青少年自然の家 企画指導専門職 山田 健一	屋外 ※荒天のため館内に変更
16:00	【実習 5】 「ふりかえり」 (評価と反省)	講師 国立花山青少年自然の家 主任企画指導専門職 狩野 浩二	大研修室
16:30	【試験】 「筆記試験」	担当 国立花山青少年自然の家 主任企画指導専門職 狩野 浩二	大研修室
17:10	【評価】 「アンケート記入」	担当 国立花山青少年自然の家 主任企画指導専門職 狩野 浩二	大研修室
17:15	【閉講式】	インフォメーション 諸連絡(事務局)	大研修室

9 実施状況

(1) 宮城教育大学との連携・協力



宮城教育大学 笠間賢二教授による講義
【講義 1】「学校教育と体験活動」

平成 22 年度より宮城教育大学との連携事業として実施して、今回で 13 回目を迎える。

6 時間の講習に 30 名の教員免許状更新対象者が受講した。宮城教育大学と国立花山青少年自然の家それぞれの特徴や教育資源を生かし、互いに連携・協力しながら講習を実施している。主に知識・理解に関する部分は大学が担当しており、今回は、笠間賢二教授による「学校教育と体験活動」と題する講義を行い、体験活動の意義や体験活動が将来の人間形成に与える影響等について理解を深めた。その後、自然の家スタッフの指導による自然体験プログラムを実際に行った。

(2) 自然の家の特色を生かした体験活動の実践

自然の家の体験活動は、まず始めに人間関係づくりの手法として「アイスブレイキング」を体験した。初めて出会った受講者同士がこの活動を通じて和やかな雰囲気を作り出し、グループとしての顔合わせと研修の目的の共有化を図ることができた。受講者からは活発な質問や意見が出され、今後の学校生活等におけるグループづくりに生かしていきたいという声も多かった。

次に、自然の家で実施している自然体験活動プログラムの目的や方法、具体的な実践に関する講義を行い、その後、「火起こし」「焼板作り」を体験した。雷雨のため「スコアオリエンテーリング」はできず、館内で行う「ここのこオリエンテーリング」を体験した。

理論と実践を組み合わせながら、受講者自身が児童・生徒の立場になって体験活動の教育的効果と有効性を実感することができたと考える。



【実習1】「アイスブレイキングの手法」



【講義2】「体験学習法の理解」



【実習2】「火起こし体験」



【実習3】「焼き板作り」



【実習4】「ここどこオリエンテーリング」



【実習5】「ふりかえり」
(評価と反省)

10 成果と課題

(1) 成果

- ・大学と自然の家が連携したプログラム構成により、自然体験学習の実践を通して講義内容の深化が図れるため受講者の評価も高かった。
- ・グループでの体験活動を通して、受講者相互による「意見交換」や「教え合う場面」が見られると共に、教育現場での実践に役立てようとする意欲を感じることもできた。

(2) 課題

- ・受講者へ準備物や時程等の情報提供を正確に発信するために大学との連絡を密にしていく必要がある。大学の教授による講義と自然の家で行う実習について整合性がとれてはいるが、資料の重複がないように大学との情報共有をしっかりと行っていきたい。